



Doshisha University Academic Repository

同志社大学学術リポジトリ

2010年度春学期修士論文・課題研究テーマ一覧

著者	同志社大学政策学会
雑誌名	同志社政策科学研究
巻	12
号	2
ページ	271
発行年	2011-03-20
権利	同志社大学政策学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000012680

2010年度 春学期修士論文・課題研究テーマ一覧

2010年度春学期において、修士論文・課題研究を提出し、修了が認定された修了生について、氏名と研究テーマを以下に示します。

氏名：平松 寿恵

題目：農山漁村と都市との交流事業による住民自治活性化

—愛知県豊根村における地域づくりインターン事業の事例から—

梗概：全国各地で豊かな地域づくりに向けた取り組みが見られ、その手段として農山漁村と都市との交流や連携が行われている。交流事業は地域住民の住民自治を目覚めさせ、活性化させるきっかけとなることが期待できる。しかし、地域の住民自治活性化への期待を持ち、都市との交流を長く続けたにもかかわらず、交流をやめてしまう地域も多く見られる。愛知県北設楽郡豊根村で行われていた、「地域づくりインターン事業」もその一例である。そこで本論文において、その原因を探るため、関係者へのヒアリング調査および豊根村における地域づくりインターン事業の報告書から、事業に係わった担当職員、村民、学生の事業に対する認識を調べどのような交流事業が豊根村において必要なのか考察した。

氏名：宮本 聖子

題目：近現代日本における難民政策の軌跡—今後の市民社会への模索—

梗概：現在世界では、民族や宗教等の違いから自国で政府から差別や迫害を受け、生命の危険と隣り合わせで生活している人たちが数多く存在する。自国で生きていけないのなら他国に逃れざるを得ない。日本にも、様々な国から逃れてきた10,000人以上の難民が生活しているが、ふだん日本にいる難民の姿はメディアではあまり伝えられない。インドシナ難民受け入れ後約30年経つが、日本にいる難民は多くの課題を抱えながら生活している。

本論文では、近現代における日本の難民政策をたどりながら、日本政府がどのように難民に対応してきたかを俯瞰していく。そして現在の問題を考察し、今後政府はどのように難民政策を行っていくべきか提言し、あわせて市民の役割も検討する。